

教科目標

言語聴覚士科(午前コース/午後コース)

1. 養成目的

専門的知識や技術の習熟を目指すと共に、地域社会における専門職社会人として高いコミュニケーション能力や考え抜く力や自ら行動する主体性を身につけ、業界を牽引できる言語聴覚士を養成する。

2. 教育目標

医療・福祉分野において、協調性のある多職種連携力や発信力、相手の立場で考えられる力を身につけ、国家試験に合格できる専門的知識を習得する。

3. カリキュラム

教育内容		科目	総時間数 (総単位数)
モチベーション プログラム	基礎分野	心理学ⅠⅡ、プロ養成講座、子ども学、社会人教育、コミュニケーション学、社会福祉概論、コンピューター、統計学、英語ⅠⅡ、保健体育、※国際教育	360 (24)
ミッション プログラム	専門基礎分野	医学総論、解剖生理学、病理学、内科学、小児科学、精神医学、リハビリテーション医学、耳鼻咽喉科学、臨床神経学、形成外科学、臨床歯科医学・口腔外科学ⅠⅡ、呼吸発声発語系の構造・機能・病態ⅠⅡ、聴覚系の構造・機能・病態ⅠⅡ、神経系の構造・機能・病態ⅠⅡ、臨床心理学ⅠⅡ、生涯発達心理学ⅠⅡ、学習・認知心理学、心理測定法、言語学ⅠⅡ、音声学ⅠⅡ、音響学・聴覚心理学ⅠⅡ、言語発達学ⅠⅡ、社会保障制度・関連法規ⅠⅡ、リハビリテーション概論	840 (56)
プロフェッショナル プログラム	専門分野	言語聴覚障害概論、地域言語聴覚療法学、言語聴覚障害診断学ⅠⅡⅢⅣ、失語症ⅠⅡⅢ、高次脳機能障害学ⅠⅡⅢ、言語発達障害学ⅠⅡⅢⅣ、音声障害ⅠⅡ、機能的構音障害、器質性構音障害、運動障害性構音障害ⅠⅡⅢ、嚥下障害概論、嚥下障害ⅠⅡⅢ、吃音、小児聴覚障害、成人聴覚障害、聴力検査法ⅠⅡ、補聴器・人工内耳、臨床実習ⅠⅡ	1635 (89)
	選択必修分野	臨床医学、解剖学ⅠⅡ、医療安全、言語聴覚総合講座ⅠⅡⅢ	
合計			2835(169)

4. 学年目標

学年	到達目標
1年	主体的に学習する姿勢を習慣化し、言語聴覚療法の基礎を習得する。
2年	学内実習や臨床実習を通し専門的知識や能力を習得するとともに、個別性を重視した柔軟な対応力と発信力を身につける。
3年	医療系以外の分野との多職種連携から多様な観点を身につけ、国家試験合格に必要な知識を習得する。

5. 取得目標資格

資格名	必・選	認定団体	認定方法
言語聴覚士	必	厚生労働省	卒業(卒業見込)で国家試験受験資格が得られ、合格にて資格取得。
コミュニケーションスキルアップ検定	必	滋慶教育科学研究所	筆記試験合格にて資格取得。

6. 就職分野

就職分野	職種
総合病院、リハビリテーション専門病院	言語聴覚士
老人保健施設	言語聴覚士
小児関連施設	言語聴覚士
訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション	言語聴覚士
補聴器メーカー、代理店	言語聴覚士

■言語聴覚士科キャリア教育マップ

コンセプト:職業人としての「身構え・気構え・心構え」の育成																		
対象分類	マネジメント分類	社会人基礎力 3つの能力	JESCキャリア教育委員会 推進 「キャリア教育の主要能力項目」	入学前キャリア教育の機会 (教育行事)		在学中キャリア教育の機会(教育行事・科目)												卒業後 キャリア教育の機会
				オープンキャンパス (特待生講習会含む)	入学前学習	導入研修	コミュニケーション スキルアップ検定	(見学前後研修含む)	ことばの教室 (小児)	国際教育	ことばの教室 (成人)	(実習前後教育含む) 臨床実習Ⅰ・Ⅱ	国家試験対策	就職対策	学習成果発表会	学生プレス活動	同窓会	
「自分」	セルフマネジメント	前に 踏み出す力 (アクション)	主体性*	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			働きかけ力	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	
			実行力	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○		
		考え抜く力 (シンキング)	課題発見力	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○		
			計画力**		○	○		○	○		○	○	○	○	○	○	○	
			創造力	○	○	○	○		○	○	○	○				○	○	○
「他者・チームとの協働」	チームマネジメント	チームで働く力 (チームワーク力)	傾聴力	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○	
			発信力	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
			チームワーク力		○	○		○	○	○	○	○			○	○		

主体性*:「Hand-book of Life Style」から第3の原則「自分でやろう」に該当する

計画力**:「Hand-book of Life Style」から第1の原則「目的をもってやろう」および
第2の原則「大事なことからやろう」に該当する

2024年度 教科課程

〈前期〉 言語聴覚士科（午前コース/午後コース） 1年

前期目標

言語聴覚士に求められる適性や基礎知識を理解し、主体的に学習する姿勢を習慣化する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教科目標
モチベーション プログラム	心理学 I	Psychology I	基礎	必修	講義	30	(2)	心理学の概論を知り、心理学がどのような学問であるかを理解する。
	プロ養成講座	Professional Training Course	基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士の基礎となる正しい日本語を学び、人に伝わる文章を書く方法やお礼状の書き方を学習する。
	コミュニケーション学	Communication Studies	基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士に必要なマナーやコミュニケーションを身につけ、実践していく。
	社会福祉概論	Introduction to Social Welfare	基礎	必修	講義	30	(2)	身近な社会福祉制度について学び、社会人としての基礎知識を身につける。
	コンピューター	Computer	基礎	必修	講義	30	(2)	ネットワーク環境を理解する。Wordでの複合文書の作成や、PowerPointを効果的に使用できる。
	英語 I	English Convvesation I	基礎	必修	講義	30	(2)	生きた英語コミュニケーションを楽しく学び、国際感覚を身につける。
	保健体育	Health and Physical Education	基礎	必修	演習	30	(2)	高齢者や障害児(者)が、スポーツ・レクリエーションを通して、豊かな交流をもてる支援について学ぶ。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミッション プログラム	解剖生理学	Anatomy and Physiology	専門基礎	必修	講義	60	(4)	人体の構造および機能について、組織、臓器、個体レベルまで総合的に学習する。
	病理学	Pathology	専門基礎	必修	講義	15	(1)	がんや自己免疫疾患など様々な病気について、原因や診断、進展機序を学ぶ。
	聴覚系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Auditory System I	専門基礎	必修	講義	30	(2)	聴器の解剖・生理学的知識と病態について学ぶ。
	呼吸発声発語系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Respiratory System I	専門基礎	必修	講義	30	(2)	呼吸器および発声発語器官の形態や機能、音声障害を引き起こす病気について学ぶ。
	神経系の構造・機能・病態Ⅰ	Physical and Functional Diseases of the Nervous System	専門基礎	必修	講義	30	(2)	脳や神経の各部名称を説明することができる。脳・神経疾患の病態や治療を学び、患者の生涯像を理解する。
	音声学Ⅰ	Phonetics I	専門基礎	必修	講義	30	(2)	音声を調音様式と調音点という視点でまとめ、表記方法を学ぶ。抑揚や調音結合など話しことばの変化にも注目する。
	言語発達学Ⅰ	Speech Development I	専門基礎	必修	講義	30	(2)	前言語期から言語期の発達段階それぞれの言語発達を学習する。障害の把握に必要なスクリーニングについて学ぶ。
プロフェッショナル プログラム	言語聴覚障害概論	Introduction to Speech and Hearing Disabilities I	専門	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士の援助の対象となるコミュニケーション障害について学ぶ。
	言語聴覚障害診断学Ⅰ	Diagnosis of Speech and hearing Disabilities I	専門	必修	講義	30	(2)	小児の言語聴覚療法の評価・治療について学び、学内実習に対応できるようになる。
	言語発達障害学Ⅰ	Language Development Disorders I	専門	必修	講義	30	(2)	言語発達障害についてその障害知識および指導法等を学ぶ。
総コマ数 18		総時間数 525					総単位数 35	

2024年度 教科課程

〈後期〉 言語聴覚士科（午前コース/午後コース） 1年

後期目標

見学研修や学内実習を通し、言語聴覚士に必要な基礎的・専門的知識を習得する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
モチベーション プログラム	子ども学	Child Education	基礎	必修	講義	30	(2)	保育の観点から子どもの見方や遊びを学び、幅広く対応できるようになる。
	社会人教育	Society Education	基礎	必修	講義	30	(2)	社会人基礎力等を学んだ上で見学研修に行き、マナーのある対応を実践する。
	英語Ⅱ	Medical EnglishⅡ	基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士が知っておくと便利な医療用語や文例について学ぶ。
	国際教育	Overseas Training	基礎	選択	演習	15	(※)	海外の医療・福祉の学びを通じて、国際的な感性を磨く。 ※学校行事として実施
ミッション プログラム	医学総論	Medical introduction	専門基礎	必修	講義	15	(1)	医療人として必要な最新の知識、医療倫理・インフォームドコンセント・チーム医療などについて学ぶ。
	内科学	Internal Medicine	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚療法と関係の深い内科疾患について臓器別に病因や特徴、治療について学ぶ。
	リハビリテーション 医学	Rehabilitation Medicine	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士にとって重要なリハビリテーションを医学的側面から学習する。
	臨床歯科医学・ 口腔外科学Ⅰ	Clinical Dentistry and Dental SurgeryⅠ	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士として必要な臨床歯科医学、歯科口腔外科領域の知識を学び、理解する。
	臨床心理学Ⅰ	Clinical Psychology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	臨床心理の基礎から心理療法までを学習し、障害受容について学ぶ。
	生涯発達心理学Ⅰ	Life-long Development Psychology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	生まれてから死に至るまでの流れを発達として捉え、それぞれのライフサイクルにおける発達課題を探究する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
プロフェッショナル プログラム	失語症Ⅰ	AphasiaⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	成人の臨床場面で接することが多い失語症の基礎知識や検査方法について学ぶ。
	高次脳機能障害学Ⅰ	Higher Brain DysfunctionⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	記憶や注意などの高次脳機能について、その種類、障害、評価方法、訓練について学ぶ。
	言語発達障害学Ⅱ	Language Development DisordersⅡ	専門	必修	講義	60	(4)	言語障害児に対する学内実習を通し、評価や治療に関する知識や技能を身につける。
	機能性構音障害	Functional Articulation Disorders	専門	必修	講義	30	(2)	機能性構音障害の基礎的知識と構音検査および訓練法を習得する。
	運動障害性構音障害Ⅰ	DysarthriaⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や、評価について学ぶ。
	嚥下障害概論	Introduction To Dysphagia	専門	必修	講義	30	(2)	社会的ニーズの高い摂食嚥下障害の解剖学的知識やメカニズムなどの基礎知識を学ぶ。
	聴力検査法Ⅰ	Hearing TestⅠ	専門	必修	演習	30	(2)	純音聴力検査が手順通りに実施できるようになる。
総コマ数 18		総時間数 480(495)						総単位数 32(33)

2024年度 教科課程

〈前期〉 言語聴覚士科 2年

前期目標

専門的学習や学内実習を通し、言語聴覚士に必要な専門的知識や技能を修得する。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
モチベーション プログラム	統計学	Statistics	基礎	必修	講義	30	(2)	Excel を利用し、表計算や表やグラフの作成方法を学ぶ。統計処理を学習する。
ミッション プログラム	小児科学	Pediatrics	専門基礎	必修	講義	30	(2)	新生児期から思春期へと、子どもの発達・成長から病気、遺伝疾患や症候群について学ぶ。
	学習・認知心理学	Learning Cognitive Psychology	専門基礎	必修	講義	30	(2)	学習、記憶、感覚、知覚、認知などについて学ぶ。
	言語学 I	Linguistics I	専門基礎	必修	講義	15	(1)	言語学の様々な分野における基礎知識を身につけ、科学的に言語を分析する視点を身につける。
	音響学・聴覚心理学 I	Acoustics・Audio Psychology I	専門基礎	必修	講義	30	(2)	音の構成を物理化学的に分析する音響学や、音の心理的側面について学習する。
	社会保障制度・関係法規 I	Social Security System・Related Laws	専門基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士が知っておくべき医療・福祉に関する法律と患者様の生活を支える社会福祉制度について学ぶ。
	リハビリテーション概論	Introduction to Rehabilitation	専門基礎	必修	講義	30	(2)	様々なリハビリテーションの種類と概要について学び、他職種連携力を身につける。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
プロフェッショナル プログラム	言語聴覚障害診断学Ⅱ	Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅡ	専門	必修	講義	60	(4)	成人の言語聴覚療法の評価・治療について学び、学内実習に対応できるようになる。
	失語症Ⅱ	AphasiaⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	失語症の評価や地用法について学び、一連の流れを理解する。
	高次脳機能障害学Ⅱ	Higher Brain DysfunctionⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	各々の高次脳機能障害特徴とそれぞれに対応する検査の目的と実施方法および結果の解釈について理解する。
	言語発達障害学Ⅲ	Language Development DisordersⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	学習障害・脳性麻痺のメカニズム・障害・指導について理解を深め、臨床における基盤を作る。
	嚥下障害Ⅰ	DysphagiaⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	嚥下障害の基礎知識を復習し、言語発 言語聴覚士に必要な評価方法と治療の概要について学ぶ。
	器質性構音障害	Organic Articulation Disorders	専門	必修	講義	15	(1)	器質性構音障害の基礎的知識と評価 治療について学び、症例報告の書き方を知る。
	小児聴覚障害	Infantile Auditory Rehabilitation	専門	必修	講義	15	(1)	小児難聴の評価や支援の視点を学 び、言語と聴覚は密接に関わっている ことを理解する。
	言語聴覚総合講座Ⅰ	Preparation for the National ExaminationⅠ	専門	選択 必修	講義	30	(2)	成人の学内実習を通し、評価や治療計 画立案や治療を経験する。
総コマ数 15		総時間数 435						総単位数 29

2024年度 教科課程

〈後期〉 言語聴覚士科 2年

後期目標

臨床実習を通して言語聴覚士としての自覚を持ち、言語聴覚士になるために自己に必要な能力を補う。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教科目標
モチベーション プログラム	心理学Ⅱ	PsychologyⅡ	基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士に必要なカウンセリングマインドを学び、対人技能を身につける。
ミッション プログラム	耳鼻咽喉科学	Otolaryngology	専門 基礎	必修	講義	30	(2)	耳・鼻・口・喉の病気について病因や特徴、治療について学ぶ。
	精神医学	Psychiatry	専門 基礎	必修	講義	15	(1)	精神障害の分野について医学的側面から学習する。
	臨床神経学	Clinical Neurology	専門 基礎	必修	講義	30	(2)	脳血管障害や脳腫瘍などの言語障害を引き起こす脳疾患の病態、画像診断、医学的治療について学ぶ。
	心理測定法	Psychological Measurement	専門 基礎	必修	講義	30	(2)	言語聴覚士として必要な心理現象の測定方法に関する知識を習得する。
プロフェッショナル プログラム	地域言語聴覚療法学	Community-based Speech and hearing therapy	専門	必修	講義	15	(1)	地域包括ケアシステムとともに、言語聴覚士が行う訪問リハや通所リハの実践について学ぶ。
	言語聴覚障害診断学Ⅲ	Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	成人の言語聴覚療法の評価・治療について更に学びを深め、学外実習に対応できるようになる。
	吃音	Stuttering	専門	必修	講義	15	(1)	吃音に関する基礎知識、評価、指導といった一連の流れを学習する。
	音声障害Ⅰ	Voice Disorders	専門	必修	講義	15	(1)	音声産出の元となる「声」を生成する器官の解剖・生理を理解し、音声障害の評価、治療を一連の流れで考えることができるようにする。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
プロフェッショナル プログラム	運動障害性構音障害Ⅱ	DysarthriaⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や評価・治療を振り返り、治療方法を身につけ、対応について学ぶ。
	嚥下障害Ⅱ	DysphagiaⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	嚥下障害の治療に関わる知識や技術を習得する。
	成人聴覚障害	Auditory Rehabilitation	専門	必修	講義	15	(1)	先天性難聴や中途失聴や老人性難聴などの難聴の影響、情報補償について学ぶ。国家試験で問われる知識を確認する。
	補聴器・人工内耳	Hearing Aid and Artificial Inner EarsⅠ	専門	必修	講義	30	(2)	補聴器の仕組みや特徴を理解する。人工内耳についてその特徴や適応、調整について学ぶ。
	聴力検査法Ⅱ	Hearing TestⅡ	専門	必修	演習	30	(2)	聴覚を適切に評価し支援内容を検討する力を養うため、各種聴力検査について目的・方法・結果の解釈を理解する。
	臨床実習Ⅰ	Clinical Practice Ⅰ	専門	必修	講義	160	(4)	現場において患者様に対する接遇、様々な障害の評価方法、評価結果の分析および、他の医療職からの情報収集の方法を習得する。これを通して患者様の状態を総合的に評価し治療プログラムを立案できる。
	解剖学Ⅰ	AnatomyⅠ	専門	必修	演習	30	(2)	各種の脳画像の見方について学び、患者様の障害像について推察できるようになる。
	医療安全	Clinical Safety	専門	必修	演習	30	(2)	患者様の安全を確保する上で必要なバイタルサインや吸引などの知識と技術、リスク管理について学ぶ。
	言語聴覚総合講座Ⅱ	Preparation for the National ExaminationⅡ	専門	必修	講義	30	(2)	国家試験問題に挑戦し、必要となる調べ方や考え方や解き方を身につける。
総コマ数 18		総時間数 595						総単位数 33

2024年度 教科課程

〈前期〉 言語聴覚士科 3年

前期目標

これまでの学習の総まとめとなる臨床実習Ⅱを経験し、言語聴覚士としての実践力を身につける。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教科目標
ミッション プログラム	形成外科学	Plastic Surgery	専門 基礎	必修	講義	15	(1)	口蓋裂などの形成外科的疾患や、褥瘡などの皮膚疾患について学ぶ。
	音声学Ⅱ	PhoneticsⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	過去問題や模試問題を解きながら、音声学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。
	言語発達学Ⅱ	Speech DevelopmentⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	健常児の言語発達を復習し、国家試験に必要な力を身につける。
プロフェッショナル プログラム	失語症Ⅲ	AphasiaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	失語症の症状や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	高次脳機能障害学Ⅲ	Higher Brain DysfunctionⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	高次脳機能障害の症状や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	運動障害性構音障害Ⅲ	DysarthriaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身につける。
	嚥下障害Ⅲ	DysphagiaⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	運動障害性構音障害の基礎知識や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身につける。
	言語聴覚総合講座Ⅲ	Preparation for the National ExaminationⅢ	専門	必修	講義	30	(2)	症例発表に必要な知識を学び、分かりやすく適切な症例発表ができる。
	臨床実習Ⅱ	Clinical PracticeⅡ	専門	必修	講義	320	(8)	臨床実習Ⅰで得た患者様を総合的に評価する方法を基に、現場での更なる情報収集の方法と様々な障害に対する治療方法および再評価の方法を学ぶ。
総コマ数 9		総時間数 515					総単位数 21	

2024年度 教科課程

〈後期〉 言語聴覚士科 3年

後期目標

国家試験に合格できる力を身につける。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミ シ ヨ ン プ ロ グ ラ ム	臨床歯科医学・ 口腔外科学Ⅱ	Clinical Dentistry and Dental SurgeryⅡ	専門 基礎	必修	講義	15	(1)	1年次に学んだ臨床歯科医学・歯科口腔外科領域の知識を復習し、国家試験対策に対応できる力を身につける。
	呼吸発声発語系の 構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Respiratory SystemⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	発声発語器官の解剖生理について振り返り、問題を解きながら理解する。
	聴覚系の 構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Auditory System Ⅱ	専門	必修	講義	30	(2)	聴器の解剖生理について振り返り、問題を解きながら理解する。
	神経系の 構造・機能・病態Ⅱ	Physical and Functional Diseases of the Nervous System Ⅱ	専門	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士の資格取得に相応しい神経系の知識を再確認し、問題を解きながら理解する。
	臨床心理学Ⅱ	Clinical PsychologyⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士に必要な臨床心理に関する知識を復習するとともに、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	生涯発達心理学Ⅱ	Life-long Development PsychologyⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	言語聴覚士に必要な生涯発達に関する知識を復習するとともに、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	言語学Ⅱ	LinguisticsⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	過去問題や模試問題を解きながら、言語学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。

区分	開講科目名	English	分類	必修 選択	授業 形態	時間 数	(単位 数)	教 科 目 標
ミッション プログラム	音響学・聴覚心理学Ⅱ	Acoustics・Audio PsychologyⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	過去問題や模試問題を解きながら、音響学・聴覚心理学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。
	社会保障制度・関係法規Ⅱ	Social Security System・Related LawsⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	言語聴覚障害に関連する社会福祉関係法規について復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。
プロフェSSIONAL プログラム	言語聴覚障害診断学Ⅳ	Diagnosis of Speech and hearing DisabilitiesⅣ	専門	必修	講義	30	(2)	臨床実習での経験を踏まえ、症例を通じて様々な言語障害者の評価・治療について学ぶ。
	言語発達障害学Ⅳ	Language Development DisordersⅣ	専門	必修	講義	30	(2)	過去問題や模試問題を解きながら、言語発達障害学の基本知識を復習し、国家試験に必要な力を身に付ける。
	音声障害Ⅱ	Voice DisordersⅡ	専門	必修	講義	15	(1)	音声障害の症状や評価・治療を振り返り、国家試験に対応できる力を身に付ける。
	臨床医学	Clinical Medicine	専門	必修	講義	30	(2)	各臨床医学の知識について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。
	解剖学Ⅱ	AnatomyⅡ	専門	必修	演習	30	(2)	人体の解剖について復習し、国家試験に対応できる力を身につける。
総コマ数 14		総時間数 285					総単位数 19	